

令和2年度
日置市教育委員会点検・評価報告書



おひさま運動イメージキャラ
『おひ丸』くん

日置市教育委員会

目 次

1	制度の趣旨	1
2	点検・評価の対象	5
	教育振興基本計画内における各施策の内容	6
(1)	学力向上に向けての取組の充実	6
(2)	体力向上に向けての取組の充実	7
(3)	地域文化の継承・発展	8
3	点検・評価の手順	9
4	タイムスケジュール	9
5	日置市教育委員会外部評価委員会設置要綱	10
6	外部評価委員会の評価	11
7	教育委員会活動点検・評価シート	
(1)	学力向上に向けての取組の充実	13
(2)	体力向上に向けての取組の充実	15
(3)	地域文化の継承・発展	17

1 制度の趣旨

国は、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正をし、教育委員会では、毎年、教育行政事務に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果について報告書を議会に提出し、公表することが規定されました。

(参考) 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」 抜粋

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

国においては、「結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うもの」としており、市教育委員会では、こうした趣旨に照らし、教育施策の点検・評価を住民に解りやすく明確に示す意味からも、日置市教育振興基本計画内の施策における対象事業を点検・評価することとしました。

第3期日置市教育振興基本計画

計画の期間

本計画は、令和2年度から令和6年度までの第3期（5か年計画）の計画となります。

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
国・県	第3期計画					第4期計画	
市	第2期	第3期計画				第4期	

本市の姿を見据えた基本目標を以下のとおり設定し、さらにそれを実現するために6つの具体的施策を展開します。

計画の施策体系

○基本目標

『夢をもち あしたをひらく 心豊かな人づくり』

○施策の基本方針

郷土の教育的な伝統や風土を生かした「風格ある教育」の推進

○施策の方向性

- I きまりを守り、礼節を重んじる教育の推進
- II 文（芸術・学問）と武（心身の鍛錬）の両立を重んじる教育の推進
- III 自然や歴史と伝統文化を重んじる教育の推進
- IV 安全・安心を重んじる教育環境づくりの推進
- V 協働社会によるまちづくりを重んじる社会教育の推進
- VI 健康づくりを重んじる生涯スポーツの推進



郷土を生かした教育の推進
(ひおきふるさと教育)

基本目標

夢をもち あしたをひ

郷土の教育的な伝統や風土を生か

施策の方向性

I きまりを守り、礼節を重んじる教育の推進

II 文(芸術・学問)と武(心身の鍛錬)の両立を重んじる教育の推進

III 自然や歴史と伝統文化を重んじる教育の推進

具体的施策

ア 学校運営の充実
イ 生徒指導の充実
ウ 道徳教育の充実
エ 人権教育の推進
オ 子ども支援センターの充実

ア 学力向上に向けての取組の充実
イ 特別支援教育の充実
ウ キャリア教育の充実
エ 保・幼・小・中・高連携の推進
オ 文化活動の推進
カ 体力向上に向けての取組の充実

ア 地域文化の継承・発展
イ 文化財の保存・活用
ウ 環境教育の充実

事業

- おひさま運動
- 学校運営協議会
- 地域学校協働活動
- ふれあい教室事業
- ひおきふるさと教育
- 教職員の人権教育研修会への派遣
- 社会教育における人権学習会
- 子ども支援センター事業

- のびゆくひおきっ子II事業
- チェスト行けひおきっ子II事業
- ICT整備事業
- 市教育支援委員会
- 巡回相談事業
- 特別支援教育研修会
- 夢づくり事業
- 文化芸術関する子どもの育成事業
- 青少年のための芸術鑑賞事業
- 文化芸術団体等の運営・育成支援事業
- 南九州美術展

- 民俗芸能等伝承活動支援事業
- 文化財保存団体等運営支援事業
- 文化財資料作成事業
- 文化財展示紹介事業
- ひおきふるさと教育(再掲)
- 清掃工場等の社会科見学推進

郷土を生かした

(ひおきふる)

「ひおきふるさと教育」

- ◎ 「知」と「体」をつなぐ「徳」を育てる教育を推進します。
 - 日置市全域の特徴的な歴史、伝統文化、自然等を幅広く学習します。
 - 日置市全域の産業や環境について理解を深め継承します。
 - 伝統的な礼儀・作法、郷土愛、自然愛、奉仕の心を学び伝えていきます。
- ◎ 「ひおき学」を柱の一つに、学校では、9年間を通した小中一貫教育を推進します。

らく 心豊かな人づくり



した「風格ある教育」の推進

IV 安全・安心を重んじる教育環境づくりの推進

- ア 施設設備の計画的整備・適正維持管理
- イ 地域ぐるみでの安全・安心な環境づくり
- ウ 災害時における避難対策の充実
- エ 学校給食の適正かつ円滑な推進
- オ 学校規模の適正化
- カ 公立幼稚園の在り方
- キ 就学支援の充実

- 地域学校協働活動(再掲)
- 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業
- 放課後子ども教室
- おひさま運動(再掲)
- 日吉学園整備事業(R3)
- 学校再編
- 就学援助費支給制度
- 私立幼稚園就園奨励費補助金制度
- 奨学資金貸付制度

V 協働社会によるまちづくりを重んじる教育の推進

- ア 家庭、学校、地域、事業者等が連携した社会教育の推進
- イ 家庭教育の充実・支援
- ウ 青少年の育成と社会教育活動への参加促進
- エ 生涯学習の充実・強化
- オ 生涯学習推進体制の強化
- カ 市民総ぐるみの読書活動の推進
- キ 情報教育の推進及び機器の充実

- 地域学校協働活動(再掲)
- 家庭教育学級
- 青少年リーダー研修
- 公民館講座
- 行政出前講座
- ブックスタート事業
- ブックスタートフォローアップ事業

VI 健康づくりを重んじる生涯スポーツの推進

- ア 生涯スポーツの推進による市民の健康づくり
- イ 日置市体育協会の育成及び競技力の向上
- ウ スポーツ少年団の充実
- エ 社会体育施設等の充実及び利用促進

- スポーツ教室事業
- スポーツテスト
- スポーツ推進員育成事業
- 学校体育施設開放事業
- 日置市体育協会事業
- 体力テスト・ボランティア活動推進事業
- スポーツ少年団競技別交歓大会、交歓交流事業
- ネーミングライツ事業
- 妙円寺詣り行事大会
- いじゅういん梅マラソンジョギング大会

教育の推進

さと教育)

「ひおき学」では

- 礼儀作法を学ぶ。
- 日置市の偉人から学ぶ。
- 日置市の伝統行事を学ぶ。
- 日置市の特産品を学ぶ。
- 日置市の文化財を学ぶ。



2 点検・評価の対象

第3期日置市教育振興基本計画では、具体的施策が32施策あり、計画期間の5年間にすべての施策について1回以上の点検・評価を行い、重要な施策においては、毎年実施するなど重点的に点検・評価を行います。

また、PDCAサイクルによる点検・評価を基本とし、各年度に実施された点検・評価結果、国の制度改正等により計画内容に変更が必要な場合には、市教育振興基本計画検討委員会へ諮問し、計画を変更します。

令和2年度は、以下の施策について点検・評価を実施します。

施策名	対象事業名	所管課
(1) 学力向上に向けての取組の充実	のびゆくひおきっ子Ⅱ事業	学校教育課
(2) 体力向上に向けての取組の充実	チェスト行けひおきっ子Ⅱ事業	
(3) 地域文化の継承・発展	民俗芸能等伝承活動支援事業	社会教育課

教育振興基本計画内における各施策の内容

令和2年度の点検・評価対象の施策内容は以下のとおりです。

Ⅱ－ア 学力向上に向けての取組の充実

現状と課題

- ① 本市の児童生徒の学力の実態は、鹿児島学習定着度調査及び全国学力・学習状況調査の結果から概ね全国・県平均を上回っています。基礎的・基本的な知識や技能については、身に付いているものの、思考力・判断力・表現力に少し課題が見られます。
- ② 全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙において、小学校では、国語の授業内容がよく分かると答えた児童が、中学校では、数学及び英語の授業内容がよく分かると答えた生徒が、県・全国よりも少ないという結果が出ています。

具体的施策

- ① 各学校において、各種調査結果を踏まえ、学力向上についての「P（具体的な計画）・D（共通実践）・C（検証）・A（改善策）」を確立し、計画的・具体的な指導方法の改善を行う取組を推進します。
- ② 「学びの羅針盤」・「のびゆくひおきっ子Ⅱリーフレット」等を活用した授業研究、「グラフ作成ソフト」を活用した点検・評価を通して、教職員の指導法等の改善を図ります。
- ③ 学力向上へ向けた取組を推進するために、「今週の1問」を作成して、全校に配信します。
- ④ 教科等の指導やプログラミング教育、情報教育を充実させるために、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図ります。
- ⑤ 小学校における外国語科及び外国語活動を充実させるために、ALTの効果的な活用や中学校英語教員による乗り入れ授業の推進を図ります。

数値等目標

「全国学力・学習状況調査」では、小学校・中学校とも市平均として、毎年全国比102以上、「鹿児島学習定着度調査」では、小学校・中学校とも県比105以上を目指します。

Ⅱーカ 体力向上に向けての取組の充実

現状と課題

市の体力向上の取組としては、チェスト行けひおきっ子Ⅱ事業研究協力校区として7中学校区から1中学校区を2年間指定し、小中連携による体力向上に向けた取組を推進しています。

具体的施策

- ① 中学校区の各学校が9年間を見通した体育学習時の指導方法改善を小中連携で研究・実践することで、運動好きな子どもを育成します。
- ② 各学校の特色を生かした「一校一運動」を設定し、推進することで基礎体力の向上を図ります。
- ③ 業間体育や遊びを通した運動の生活化を図る中で、自己の能力に挑戦させる取組を通じ、体力・気力の向上に努めます。
- ④ 体力・運動能力調査の結果分析を生かし、個人的な取組を継続的に行うことを通して、焦点化した基礎体力向上を図ります。
- ⑤ 家庭で取り組む「一家庭一運動」の実践を通して体力向上への啓発を図ります。
- ⑥ PTA等との連携による親子レクリエーション等の実施や地域スポーツ行事への積極的な参加の推進に努めます。
- ⑦ 体育施設や体育授業で使用する用具の充実を図ります。
- ⑧ 「チャレンジかごしま」への取組を推進し、県への記録の申請を積極的に行います。

数値等目標

- 体力・運動能力調査で、小学校・中学校とも県比+0.5以上を目指します。
- 平成29年度から実施している「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業を令和12年度まで継続し、全小・中学校を研究指定します。
- 毎年、指定2年目の研究公開を実施し、教科体育や基礎体力向上への取組などの研究成果を発表します。

現状と課題

- ① 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う郷土教育の推進が必要です。
- ② 本市の歴史や先人の偉業についての正しい理解を図り、郷土への誇りを育てる教育を一層充実する必要があります。
- ③ 市内には地域の自然、歴史、風土に根ざした多彩な文化芸術が生まれ、人々の地域に生きる誇りを醸成し、地域のコミュニティを支える大きな力となっています。
- ④ 市内には、個性豊かな郷土芸能や伝統行事、史跡など多くの文化資産がありますが、少子高齢化・過疎化による担い手不足などにより、保存・継承が難しくなっています。

具体的施策

- ① 各学校において、市内全域の郷土芸能や伝統産業を体験する活動、先人の業績・生き方について学ぶ活動等の充実を図り、本市の魅力を語る人材の育成に努めます。
- ② 伝統的な礼儀・作法、郷土愛、自然愛、奉仕等の道徳性について、身に付ける活動等の充実を図ります。
- ③ 郷土に誇りをもち、未来を担う子どもたちを育てるために、教職員が本市の文化、歴史、伝統等についての理解を深め、教育実践がなされるよう、ひおきふるさと教育に関する教職員の資質の向上を図ります。
- ④ 貴重な伝統文化の継承について、関係機関と連携しながら、継承できる仕組みづくりに努めます。
- ⑤ 市内に伝わる郷土芸能や伝統行事等の担い手を育成するとともに、独自の地域文化を次世代へ継承していきます。

3 点検・評価の手順

- 教育委員及び教育委員会事務局による自己評価
- 外部評価委員による評価
- 報告書の作成
- 教育委員会で報告書の決定
- ↓ 議会への提出及び市民への公表

4 タイムスケジュール

月	内容	備考
11月中旬	点検・評価資料の作成	
12月下旬	外部評価委員会にて点検・評価	
1月下旬	教育委員会定例会に点検・評価報告書議案提出	
2月中旬	外部評価委員へ報告書送付	
2月下旬	議会への報告・ホームページへの掲載	

5 日置市教育委員会外部評価委員会設置要綱

平成20年11月21日 教育委員会告示第23号

(趣旨)

第1条 この告示は、日置市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に置く外部評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業評価結果を審査すること。
- (2) 事務事業評価制度の改善について教育委員会に意見、提言を行うこと。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者について教育委員会が委嘱する。

- (1) 市内高等教育機関関係者のうち、知見を有する者
- (2) 市内企業関係者のうち、知見を有する者
- (3) 社会教育、社会体育及び芸術文化関係者のうち、知見を有する者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会議を総理し、委員会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において処理する。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、平成21年4月1日から施行する。

6 外部評価委員会の評価

- (1) 開催日時 令和2年12月22日（火）午後1時30分から午後3時10分まで
- (2) 委員 牧原委員、中木屋委員、福留委員、鈴木委員、横山委員 以上5人
- (3) 事務局
 奥教育長、梅北事務局長兼教育総務課長、渦尾学校教育課長、
 横枕社会教育課長、恒吉東市来支所教育振興課長、
 坂上日吉支所教育振興課長、松岡吹上支所教育振興課長、
 東教育総務課長補佐
- (4) 外部評価委員の評価
 次ページ参照

委員名簿

	区分	所属	役職	氏名	備考
1	市内高等教育機関関係者	県立伊集院高等学校	校長	福留和宏	
2	市内企業関係者	市商工会	会長	鈴木正文	
3	社会教育、社会体育及び 芸術文化関係者	市社会教育委員	議長	中木屋豊	副会長
4		市地域女性連絡協議会	会長	横山公代	
5	教育委員会が必要と認める者	鹿児島純心女子大学	教授	牧原勝志	会長

令和2年度
点検・評価シート

教育委員会事業の点検・評価シート

施策名	学力向上に向けての取組の充実（Ⅱーア）	担当課	学校教育課				
事業名	のびゆくひおきっ子Ⅱ事業	元年度予算額	24 千円				
		元年度決算額	18 千円				
1 事業の内容	【事業の目的及び概要】 施設分離・併設型「小中一貫教育」の「知」の事業として、義務教育9年間の学習活動を体系的に捉え、系統性を重視した取組を各中学校区ごとに推進することで、校種間の接続を円滑に行うとともに、学力向上に資する。						
	【現状と課題】 ○ 小中一貫教育研究協議会・各中学校区を単位とした小中一貫教育研修会を通して、のびゆくひおきっ子Ⅱ事業の主旨や内容等を周知し、施策の進め方を協議する。 ○ 平成27年度から実施の「のびゆくひおきっ子Ⅱ教科研究会」では、小・中間の系統性を重視した指導法改善を図る。 ○ 教職員の資質向上を図るための「学校教職員研修派遣事業」の推進や校内研修に係る指導主事派遣回数を増やすことで、学力向上につなげる。						
2 成果指標	成果内容		30年度実績値	元年度目標値	元年度実績値		
	小中一貫教育研究協議会（年2回）		2	2	2		
	小中一貫教育研修会（年3回×7中学校区）		21	21	21		
	教科研究会		1	1	1		
	学校教職員研修派遣事業		10	13	13		
	校内研修に係る指導主事派遣回数		138	100	79		
3 事業の分析	分析評価		分析評価の理由				
	妥当性	教育ニーズなどから判断して、必要性の高い事業である。	○	9年間を通して系統性を生かした指導や「のびゆくひおきっ子Ⅱ事業教科研究会」等による教員の指導力向上、「のびゆくひおきっ子Ⅱリーフレット」や「グラフ作成ソフト」の活用による授業改善が本市の学力向上につながると考える。			
		教育ニーズなどから判断して、必要性が薄れつつある事業である。					
		教育ニーズなどから判断して、必要性が低い事業か、または、目的が達成された事業である。					
	有効性	成果を下げずに経費や事務量を削減する余地はない。	○	各学校における校内研修では、指導主事の招聘や外部講師の派遣など有効に活用している。また、先進校における研修も積極的に行っている。さらに、「今週の1問」の継続的な取組が学力向上に確実に繋がっている。			
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地があり、適宜見直しを行っている。					
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地がある。					
達成度	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）以上の成果を上げることができた。	○	鹿児島学習定着度調査において、小・中学校とも県の平均通過率を上回り、過去最高の成果を上げた（目標まであと0.2）。また全国学力・学習状況調査において、小・中学校とも全国平均を6年ぶりに上回る結果となった（目標まであと0.5）。引き続き課題分析を基に学力向上策を支援していきたい。				
	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して概ね目標（値）の成果を上げることができた。						
	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）の成果を上げることはできなかった。						
4 今後の方向性 (今後の方向性の具体的内容)		自己評価	充実・拡大	現状維持	見直・改善	縮小	廃止
		○					
施設分離・併設型「小中一貫教育」の三年目を終え、各学校ではこれまでの「連携」から「一貫」への意識が高まってきている。特に、「のびゆくひおきっ子Ⅱ事業」の主旨を踏まえ、9か年における学びの系統性・連続性を重視した研究実践を今後も継続的に行っていききたい。 また、「のびゆくひおきっ子Ⅱリーフレット」、「グラフ作成ソフト」、「今週の1問」の三本の矢で、児童生徒の学力向上や教師の授業改善・指導力向上を図っていききたい。「のびゆくひおきっ子Ⅱリーフレット」については、次年度に向けて内容の見直し・充実を図っていききたい。							

5 教育振興基本計画における当該事業の具体的方策等の内容			
具体的施策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上へ向けた取組を推進するために、研究公開や授業研究を通して、教職員の指導法等の改善を図る。 ○ 各学校においては、各種調査結果を踏まえ、学力向上についての「P（具体的な計画）・D（共通実践）・C（検証）・A（改善策）」を確立し、計画的・具体的な指導方法の改善を行う取組を推進する。 ○ 「今週の1問」、「のびゆくひおきっ子Ⅱリーフレット」、「グラフ作成ソフト」の三本の矢で、児童生徒の学力向上や教師の授業改善・指導力向上を図る。 ○ 各中学校区において、中学校教員の小学校への乗り入れ授業を推進し、小中連携を強化する。 		
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「全国学力・学習状況調査」では全国比102、「鹿児島学習定着度調査」では県比105を上回る。 ○ 研究公開・授業研究の実施校（現在100%）を継続する。 ○ 思考力・判断力・表現力を育成するために、わくわく作文塾、英会話体験学習、科学の祭典等の教育事業を今後も継続する。 		
過去の外部評価委員の意見 (実施年度：－)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度 基本的な生活習慣では、鹿児島県全体として全国平均より高い状況であり、また、市においても同様であるが、学力においては、全国平均より少し低い状況である。 今後、学力の向上を図っていただけるよう取組を強化していただきたい。 小・中学校で9年間学習するので、教職員の質の向上を図り、また、家庭との連携を重視して実施していただきたい。 ○ 平成28年度 のびゆくひおきっ子事業は、実際には学校教育の中で学力が低い生徒や学校教育そのものに反発してしまうという子どもの方がはるかに問題である。学校教育の中で適応できない人たちがこそ、本当の意味での手当てが必要であり、学力の点数のみでの評価ではない。 方向性は間違っていないが、忙しい先生を作らず更に他の効果も考えられるような施策を実施し、外部評価をする方がはるかに良いのではと考える。 ○ 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果等において学校間で格差がある。格差解消においては、改善策が必要であるが、市全体の学力結果の平均や不登校の問題は改善されており、今後も更なる充実を図っていただきたい。 ○ 平成30年度 小学校では、全国平均・県平均を上回る結果となっているが、中学校では県・日置市ともに全国平均を下回る結果となっている。昨年度からの小学校と中学校の連携を深める取組に期待します。 ○ 令和元年度 学力の向上に向けた取組により、平均的には成果が表れていると考えるが、平均を下回る児童生徒の対応の充実を図っていただきたい。 		

6 外部評価委員の評価

評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の充実・拡大が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の現状維持で継続が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の一部見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の大幅な見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の廃止が妥当である。	備考	
----	---	----	--

意見及び提言	<p>学力向上に向けた取組としての「学習支援アシスタント派遣事業」や特別支援教育を必要とする児童・生徒への支援など、予算の確保を含めて充実を図っていただきたい。 また、児童・生徒の学習意欲を高めるための施策や教職員の指導法改善などの施策も検討していただきたい。</p>
--------	---

教育委員会事業の点検・評価シート

施策名	体力向上に向けての取組の充実（Ⅱーカ）	担当課	学校教育課				
事業名	チェスト行けひおきっ子Ⅱ事業	元年度予算額	400 千円				
		元年度決算額	318 千円				
1 事業の内容	<p>【事業の目的及び概要】 施設分離・併設型「小中一貫教育」の「体」の事業として、9年間における体力・運動能力の育成に視点を置き、体力・運動能力調査結果等の校種間共有や、系統性を重視した体育学習における指導法改善に取り組むことで、運動の楽しさを味わわせ、運動好きな子どもを育てる。</p>						
	<p>【現状と課題】 各学校ではこれまで教科体育の時間や始業前・業間の帯時間、中学校においては部活動等を通して、体力向上に取り組んでいるが、学校単位・学年単位での取組に偏りがちである。特に今まで研究指定を受けていない中学校区においては、校種間を超えた系統性を重視した取組がまだ十分ではない。 また、研究指定校区においても、小中一貫教育における校種間の体育学習の乗り入れ授業の実施がまだ十分ではない。</p>						
2 成果指標	成果内容		30年度実績値	元年度目標値	元年度実績値		
	小中一貫教育研究協議会（年2回）		2	2	2		
	小中一貫教育研修会（年2回×7中学校区）		21	21	21		
	市体育指導法・実技講習会の開催		0	1	1		
3 事業の分析	分析評価		分析評価の理由				
	妥当性	教育ニーズなどから判断して、必要性の高い事業である。	○	9年間を通して系統性を生かした授業改善や体力・運動能力調査結果を踏まえた改善策の実施など、今後においても必要な事業である。			
		教育ニーズなどから判断して、必要性が薄れつつある事業である。					
		教育ニーズなどから判断して、必要性が低い事業か、または、目的が達成された事業である。					
	有効性	成果を下げずに経費や事務量を削減する余地はない。	○	研究指定を受けた中学校区においては、体力向上及び授業改善につながる施設・設備及び機器の購入を行っており、継続的な取組を通して成果を上げる必要がある。			
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地があり、適宜見直しを行っている。					
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地がある。					
	達成度	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）以上の成果を上げることができた。	○	各中学校区において系統的・継続的な体力向上への取組を実施することで、一定の成果が上がっている。 研究指定を受けた学校の体力テストの課題の体力に対して系統的・継続的な対策を講じることで改善が見られた。			
		教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して概ね目標（値）の成果を上げることができた。					
教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）の成果を上げることができなかった。							
4 今後の方向性 (今後の方向性の具体的内容)		自己評価	充実・拡大	現状維持	見直・改善	縮小	廃止
			○				
<p>小中一貫教育を実施して3年目である。研究指定を受けた土橋中学校区では、小学校と中学校が協力・連携しながら9か年を通じた系統的・計画的な体力向上に向けての研究を推進している。 研究の成果として、体力向上のためには、体育の授業改善、教科外の活動の充実、家庭や地域との連携が有効であることが分かった。児童生徒の運動に対する興味・関心が高まり、日頃から運動に親しむ習慣が育成され、学校全体の体力向上を図ることができた。 今後も、各中学校区において、体力・運動能力調査結果を小・中学校間で共有・分析し、対応策を協議するとともに、体育授業の改善や教科外の活動等において系統性・計画性のある取組を期待したい。</p>							

5 教育振興基本計画における当該事業の具体的方策等の内容

<p>具体的施策</p>	<p>施設分離・併設型「小中一貫教育」の「体」の事業として、9年間における体力・運動能力の育成に視点を置き、体力・運動能力調査結果等の校種間共有や、系統性を重視した体育学習を目指した指導法改善、教科外の活動（遊び・運動）の充実、家庭や地域との連携に取り組むことで、運動の楽しさを味わわせ、運動好きな子どもを育てる。</p>		
<p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力・運動能力調査で、小学校・中学校とも県比+0.5以上を目指します。 ○ 平成29年度から実施している「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業を令和12年度まで継続し、全小・中学校を研究指定します。 ○ 毎年、指定2年目の研究公開を実施し、教科体育や基礎体力向上への取組などの研究成果を発表します。 		
<p>過去の外部評価委員の意見 (実施年度：－)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度 体力がある子どもと体力がない子どもの二極化の問題について、親子で取り組む一家庭一運動が各学校で成果を上げており、改善しつつある中で、子どもたちも非常に楽しく意欲的に取り組んでいる。 そうした中で、体力を向上させるだけでなく、時代によって骨格でいうと顎が細くなったり、握力が弱くなったりしており、もっと重点的に鍛えないといけない。 また、子どもたちにはどうしても体力の差があって、県体育大会があれば、それに向けて全校生徒が向かっていけるのかということもある。 ○ 平成28年度 49千円という予算については、議会からも予算が少額であるなどの意見が出るのではないかと。 ○ 平成29年度 ヨコミネ式教育法の中では、負けると悔しいという環境の中で、幼児期に富士山に登ったりするなどを実践している。そうした意味においては、幼児教育の段階で体力づくりをするということが大事であり、市としても乳幼児の体力面や運動能力を高めるための施策について補助金を交付するなどを検討されたい。結果として、小中学校の体力向上へつながっていくものと考えます。 ○ 平成30年度 チェストいけひおきっ子事業の継続した取組を評価する。 ○ 令和元年度 チェストいけ！ひおきっ子事業の成果として、体力向上が図られている。予算の執行に当たっては、早めに必要な備品等を選定の上、早めの執行を心がけていただきたい。 		

6 外部評価委員の評価

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業の充実・拡大が必要である。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の現状維持で継続が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の一部見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の大幅な見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の廃止が妥当である。 	<p>備考</p>	
<p>意見及び提言</p>	<p>チェストいけひおきっ子Ⅱ事業については、体力向上を図る上で現状のまま継続していただきたい。</p> <p>その他として、児童・生徒が夢を持ち意欲をもって活動できるようにスポーツ少年団や部活動などでの大会出場に対する支援や幼児期から運動能力を高めるための取組が結果として小中学校の体力向上へつながるものと思われるので検討していただきたい。また、放課後の過ごし方も含め、運動をする機会が増えるような対策等も検討していただきたい。</p>		

教育委員会事業の点検・評価シート

施策名	地域文化の継承・発展（Ⅲ－ア）		担当課	社会教育課			
事業名	民俗芸能等伝承活動支援事業	元年度予算額	14,000 千円				
		元年度決算額	11,460 千円				
1 事業の内容	【事業の目的及び概要】 ○市内に伝わる郷土芸能や伝統行事等の担い手を育成するとともに、独自の地域文化を次世代に継承していきます。また、様々な催事における披露紹介などに取り組み、広く周知を図ることにより継承活性化に繋げます。						
	【現状と課題】 ○子どもたちをはじめ、市民が郷土の歴史や身近な文化財に触れ、学び、親しむことなどにより、郷土を愛する心を醸成することが求められています。 ○市内に伝わる地域の郷土芸能や伝統行事等の担い手が育つとともに、地域の文化財の活用が図られるなど、個性を生かした地域づくりが展開されることが必要です。 ○市内には豊かな自然をはじめ、個性豊かな郷土芸能や伝統行事、史跡など多くの文化財があり、地域や市民共有の貴重な財産として守り伝えられてきています。						
2 成果指標	成果内容		30年度実績値	元年度目標値	元年度実績値		
	実施団体数		49	50	50		
3 事業の分析	分析評価		評価		分析評価の理由		
	妥当性	教育ニーズなどから判断して、必要性の高い事業である。	○		地域で大切に保存・継承されてきた民俗芸能等の運営支援を行うことにより、地域における生きがいと心の豊かさ、郷土に対する愛着と誇りを育む取組みができた。		
		教育ニーズなどから判断して、必要性が薄れつつある事業である。					
		教育ニーズなどから判断して、必要性が低い事業か、または、目的が達成された事業である。					
	有効性	成果を下げずに経費や事務量を削減する余地はない。	○		民俗芸能等の保存伝承や後継者育成の支援を行うことにより、人と地域がつながり、少子高齢化や人口減少に歯止めをかけ、コミュニティ機能が高まる。		
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地があり、適宜見直しを行っている。					
		成果を下げずに経費や事務量を削減する余地がある。					
達成度	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）以上の成果を上げることができた。	○		伝統芸能は、多くの市民に感動や心のやすらぎをもたらすだけでなく、地域の一体感を高め、地域らしさを発信するなど地域を元気にすることができた。			
	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して概ね目標（値）の成果を上げることができた。						
	教育振興計画等に掲げる目標（値）に対して目標（値）の成果を上げることができなかった。						
4 今後の方向性 (今後の方向性の具体的内容)		自己評価	充実・拡大	現状維持	見直・改善	縮小	廃止
				○			
<p>伝統芸能継承の問題を含む地域コミュニティの維持は、単に文化財部門の問題に止まらず、少子高齢化に由来する地域社会の過疎化現象とも密接に関わっている。</p> <p>今後においては、市民、特に次世代を担う子どもたちが郷土芸能に対する意識を高めるため、</p> <p>① 子どもたちが、日置市の歴史を学ぶ機会（講座等）を設ける。</p> <p>② 伝統芸能を広報紙等で積極的に紹介する。</p> <p>③ 市が主催するイベントのオープニング等において伝統芸能を紹介する。</p> <p>④ 郷土の歴史を学ぶ、ふるさと図書コーナーを市立図書館に整備し、郷土に対する誇りと愛着を育てる。など、「ふるさと日置」の伝統芸能を、親から子へ、子から孫へ教え合い、学び合いながら伝承していく施策を講じる。</p>							

5 教育振興基本計画における当該事業の具体的方策等の内容			
具体的施策	<p>市内の民族芸能等の伝承及び保存を支援するため、活動を行う団体等に対して予算の範囲内において交付金を交付する。</p> <p>また、様々な催事における披露紹介などに取り組み、広く周知を図ることや地域の子供たちが体験を通し、地域の伝統を学ぶ機会とし、継承活性化に繋げる。</p>		
数値目標	無し		
過去の外部評価委員の意見 (実施年度：－)	無し		
6 外部評価委員の評価			
評価	<input type="checkbox"/> 事業の充実・拡大が必要である。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の現状維持で継続が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の一部見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の大幅な見直し・改善が必要である。 <input type="checkbox"/> 事業の廃止が妥当である。	備考	
意見及び提言	<p>後継者不足等の課題があるものの、子どもたちが先人や歴史、地域への思いを醸成させる上で重要であり、また、「歴史の学び」ということも踏まえ、継続していただきたい。</p> <p>また、伝統芸能を伝承するためには、伝承の方法もあるかとは思いますが、多額の費用が必要であるため補助金の増額の検討や伝承に対する他の補助制度等も研究していただき、各保存会等へ周知を図っていただきたい。</p>		